

令和3年度 津田中学校 学校評価

	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	活動計画	評価指標	評価		学校関係者の意見
学習指導	<p>1. 生徒の基礎的な知識・技能の定着と、学ぶ意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。</p> <p>2. 生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>1. 学びへの興味・関心を持たせるためGIGAスクール事業のタブレットなどのICT活用に積極的に取り組む。また生徒同士の協働の場面をつくるなどアクティブラーニングの手法を取り入れる。</p> <p>2. 自主学習ノートの使い方の指導を行い、学習方法を身につけさせる。またテスト期間や長期休業中に学習記録をつけさせることで、家庭学習習慣の定着を図る。</p>	<p>1-①。「ICTを利用した授業が行われている」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>1-②。「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2-①。「家庭学習が習慣化している」と答える生徒・保護者が85%以上となる。</p> <p>2-②。「家庭学習の方法を身につけている」と答える生徒が80%以上となる。</p>	<p>1-①。「先生はタブレットを活用した授業を行っている」と答えた生徒は77.2%であった。</p> <p>1-②。「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている」と答えた生徒が85.2%で目標を上回った。</p> <p>2-①。生徒76.5%、保護者63.4%となり、目標を達成できなかった。</p> <p>2-②。76.9%であり、目標を達成できなかった。</p>	<p>○学校間や保護者・教員の意識の差があるため、タブレットの使用の仕方に温度差ある。タブレットの使用は、生徒と先生と一緒に学んで進めて欲しい。</p> <p>○授業のわからない生徒の手立てや対策を続けて欲しい。</p> <p>○家庭学習の達成している判断は、本人の意識の差が出ているのであまいな感じがする。</p>	<p>○授業におけるICTの活用という点において、多くの教員がプロジェクトやデジタル教科書を利用した授業を実践している。しかし、1人1台のタブレットの活用は不十分であった。授業での効果的なタブレット活用方法や、家庭学習の習慣化と学習方法の定着のための家庭におけるタブレット活用方法などを、校内研修等を通して授業改善及び意識改革を進めていきたい。</p>
生徒指導	<p>1. 自ら進んでする自発的なあいさつの定着を図る。</p> <p>2. いじめの予防・早期発見・生徒理解を深め、相談体制を確立する。</p>	<p>1. 教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。</p> <p>2. 学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。</p>	<p>1. 「自ら進んで、あいさつがきちんとできている」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。</p> <p>2. いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。</p>	<p>1. 「自分からあいさつができる」と答えた生徒が87%と昨年度より7%向上した。生徒会による朝のあいさつ運動でも活発にあいさつを交わしている姿が見られた。</p> <p>2. 「困ったとき学校の先生に相談できる」と答えた生徒が63%と昨年度を7%下回った。</p>	<p>○いじめ問題やネット上の問題など見えない部分も多くなっている。</p> <p>○不登校の問題は、一小中学校の特性もあり、なかなか改善できていない。学力面でも心配なのでフォローできる体制にして欲しい。</p>	<p>○生徒会役員の多くの生徒が演説であいさつに触れていたこともあり、生徒のあいさつに対する意識を引き上げるために、生徒会と連携を取ってきたい。</p> <p>○生活アンケートや個人面談だけでは、困っている生徒を見つけてあげられていない状況があるので、積極的な声かけと観察を行うとともに、家庭との連携を図って欲しい。</p>
道徳・人権教育	<p>1. 校訓の精神を基盤として、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりのある豊かな心を持った生徒を育成する。</p> <p>2. 自他の人権を尊重し、民主的な社会を築く実践力を身につけた生徒を育てる。</p>	<p>1. 道徳性や道徳の実践力を育むため、22項目の内容を計画的に配置する。また、生徒が意欲的に活動できるような授業形態や補助教員の工夫・改善を図る。</p> <p>2. 「津田中生みんなが幸せになる」ために自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。</p>	<p>1-①。生活アンケートのあいさつ・感謝の言葉を伝える項目が90%以上となる。</p> <p>1-②。清掃や交通マナーなど集団や社会の一員としての内容で85%以上となる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。</p>	<p>1-①。あいさつ・感謝の言葉を伝える項目は95.3%で目標を上回った。</p> <p>1-②。清掃には89.3%の生徒が進んで取り組めた。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」生徒が95.6%で、目標を上回ることができた。</p>	<p>○地域の人へのあいさつもよくできている。</p> <p>○あいさつを交わすことで地域としても次につなげやすい</p>	<p>○ローテーション道徳を継続し、授業形態や補助教員・教材の研究を行う。また校訓の精神を生かした授業づくりを進める。</p> <p>○ コロナウイルス感染症に対する偏見や差別を生まない指導の徹底を図る。養護教諭との連携を図り、全校生徒や保護者への啓発を進める。</p>
特別支援教育	<p>1. 通常学級に在籍する配慮を要する生徒への理解を深め、支援を実施し改善を図る。</p> <p>2. 支援学級在籍の生徒に対して、指導計画等を作成して計画的な指導を行う。</p> <p>3. 全教職員の特別支援教育に関する理解を深める。</p>	<p>1. 生徒への支援と、保護者や他機関と連携方法を工夫する。</p> <p>2. 担当教員間で情報を共有し、学期ごとに評価をして改善を図る。</p> <p>3. 校内支援委員会等を活用して支援体制を充実させ、教員の理解を深める。</p>	<p>1. 具体的支援目標を立てて実行する。「ユニバーサルデザインを心がけている」と答える教員が75%以上となる。</p> <p>2. 指導項目の5割はAの評価ができるようにする。</p> <p>3. 校内支援委員会を年間3回以上開催し、校内支援の体制を整える。</p>	<p>1. 「ユニバーサルデザインを心がけている」と答える教員が83.3%であった。昨年より16.7%増え目標を上回ることができた。</p> <p>2. 「個性に応じた指導と配慮を工夫している」と全職員が回答した。</p> <p>3. 職員会を活用して、校内支援委員会を6回開催するとともに、UDとPBSIについて校内研修を持つことができた。</p>	<p>○個に応じた指導をしているので今後とも継続して欲しい。</p> <p>○専門知識をもった外部の方に支援できる体制を整えていく。</p> <p>○今後も「れん」の引き継ぎシートをうまく活用して欲しい。</p>	<p>○全ての生徒にわかりやすいよう、ユニバーサルデザインとポジティブな行動支援を実践していく。</p> <p>○生徒の特性や状況などを、学年・学校として共有してい。</p> <p>○教職員・保護者・SC・医療機関等の連携を密にし、様々な要望や状況への対応力を高める。</p>
健康・安全指導	<p>1. 自分の心身の発達に関心を持ち、健康の保持増進に努める。</p> <p>2. 校内の危険箇所の発見・修理により安全な学習環境を保持する。</p>	<p>1. 健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。</p> <p>2. 施設・設備の定期点検を行い、危険箇所の早期発見、早期修理に努める。</p>	<p>1. 「心身の健康に気がつけた生活が送れている」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2. 「校内の危険箇所をすぐに修理されている」と答える生徒・教員が90%以上となる。</p>	<p>1. 心身の健康や感染症対策に気がつけた生活が送れている」と答える生徒は、93.2%となり、達成することができた。</p> <p>2. 目標値の90%以上には達しなかった。本校の施設・設備が非常に古いため、破損箇所等が多く、修正が追いついていないためと考えられる。</p>	<p>○校内の危険箇所をすぐに修理しているとの生徒の回答が低かった。校舎が古いため、安全面の点検を日々行って欲しい。</p> <p>○プールなど使っていない施設についても点検して欲しい。</p>	<p>○月1回の健康力アップ作戦を継続し、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む意欲を育てていきたい。</p> <p>○特に生徒が普段生活する範囲の箇所の修繕をたくさん行っていき、目に見えるような修繕箇所を増やしていきたい。</p>
開かれた学校づくり	<p>1. 学校経営の方針や教育活動の状況について、保護者や地域の方々に説明し、理解と協力を得る。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、学校・家庭・地域が連携できるような工夫する。</p>	<p>1. 積極的に学校開放を行い、教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学校・学年だよりによる情報発信を積極的に行ったりする。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら地域の人材を活用し、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりに努める。</p>	<p>1. 週1回以上ホームページを更新するなどして、「学校の様子がわかる」と答える保護者が85%以上となる。</p> <p>2. 「コロナ禍において学校・家庭・地域が連携できるよう工夫している」と答える保護者・教員が70%以上となる。</p>	<p>1. 目標値85%に達することができなかった。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、学校の様子を参観できる機会が多くなったと考えられる。</p> <p>2. 目標値70%以上に達した。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、家庭や地域との関わる機会が多くなったと考えられる。</p>	<p>○地域との連携は強いとかんじている。</p> <p>○地域との連携が、教員と保護者との差があるので教員にも地域と関わる機会をつくって欲しい。</p>	<p>○次年度も、新型コロナウイルス感染症対策をふまえてオープンスクールや参観日、またPTA活動の実施に向けてICTの活用するなど工夫をしていきたい。以前のようにともに活動する機会を大切にし、チーム津田中学校として、開かれた学校づくりに一層取り組んでいきたい。</p>